

## 活動2 学級指導

### 2.1 概説

#### 2.1.1 概要

学級指導は、教師が授業として意図的、計画的に行う活動です。児童に共通した問題を取りあげ、指導します。しかし、教師が無理やり児童の行動を変えようとするものではありません。次の内容に関して、一人ひとりの児童が話し合いを通じて問題についての考えを深め、個人が主体的に意思決定をして、その実現に向けて取り組みます。

1. 日常生活や学習への適用、自己の成長、健康安全
2. 一人一人のキャリア形成と自己実現

#### 2.1.2 活動の目的

活動後、児童は次のことを出来るようになることが望まれます。

- ・ 自分達が直面している問題や改善すべきことを発見する
- ・ 話し合いの中で得られた様々な選択肢を検討し自分の解決策を見出す
- ・ 生活をよりよくするために、他人と協力して問題解決に粘り強く取り組む
- ・ 他人を尊敬しより良い関係を築く努力をする

#### 2.1.3 活動実施時期

週1回（45分）で学級会と交互に実施します。

#### 2.1.4 活動主体

教師が授業を実施します。

#### 2.1.5 ライフスキルと目指す価値（生きる力）

主要スキル	サブスキル	価値観
問題解決	1. 問題を特定すること 2. データを収集すること 3. 解決すること	完璧さ
意思決定	1. 適切な解決策を選択すること 2. 選択した解決策を適用すること	
自己管理	1. 明確な目的を設定すること 2. 上手に時間を管理すること 3. 目標達成のための進歩を振り返ること	
回復力 Steadfastness	1. 解決策を模索する際に、困難にうまく対処するために適応および調整すること 2. 忍耐を持ち怒りのコントロールをすること	

### 2.1.6 学級指導は何を扱うか

学級指導が扱う内容は以下の通りです。

#### 1. 日常の生活や学習への適応、自己の成長、健康安全

内 容	学級指導のテーマのキーワードの例
基本的な生活習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちのこもった挨拶をしよう</li> <li>・持ち物の整理整頓の仕方を工夫しよう</li> <li>・忘れ物をなくそう</li> <li>・素敵な言葉遣いで話そう</li> <li>・時間を守ろう</li> <li>・ルールやマナーを守ろう</li> <li>・教室の中ではいつも笑顔でいよう</li> </ul>
よりよい人間関係の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のよいところを見つけよう</li> <li>・協力するってどんなことか考えよう</li> <li>・仲良くなる魔法の言葉は何だろう</li> <li>・男女で協力しよう</li> <li>・違いを認め合おう</li> <li>・友情を深めよう</li> </ul>
心身ともに健康で安全な生活態度の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な生活について考えよう</li> <li>・あなたの成長に気づいていますか</li> <li>・病気にならないために工夫しよう</li> <li>・心の健康について考えよう</li> <li>・雨の日の正しい行動について考えよう</li> <li>・身の回りの安全について考えよう</li> <li>・交通安全を心がけよう</li> <li>・火災や地震から身を守ろう</li> </ul>
食育の観点を踏まえた望ましい食習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく食事をしよう</li> <li>・バランスの良い食事をしよう</li> <li>・食べる前に手を洗おう</li> <li>・食品添加物と健康について考えよう</li> <li>・神様と食べ物を準備してくれた人に感謝しながら食べよう</li> <li>・食事のエチケットを考えよう</li> <li>・食事を残さず食べよう</li> </ul>

#### 2. 一人一人のキャリア形成と自己実現

内 容	学級指導のテーマのキーワードの例
現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人目標を決めよう</li> <li>・1年間でできるようになったことを振り返ろう</li> <li>・学級目標を決めよう</li> <li>・目標を振り返ろう</li> <li>・将来の自分を考えよう</li> </ul>

社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級をきれいにしよう（清掃）</li> <li>・学級みんなのために働こう（日直）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級をよりよくするために工夫しよう（係活動）</li> <li>・自分にできること（ボランティア活動）をしてみよう</li> </ul>
主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の仕方を振り返ろう</li> <li>・本を読んで学ぼう</li> <li>・自分に合った学習方法を見つけよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己実現のために何を学ぶのか考えよう</li> <li>・学校図書館を上手に利用しよう</li> </ul>

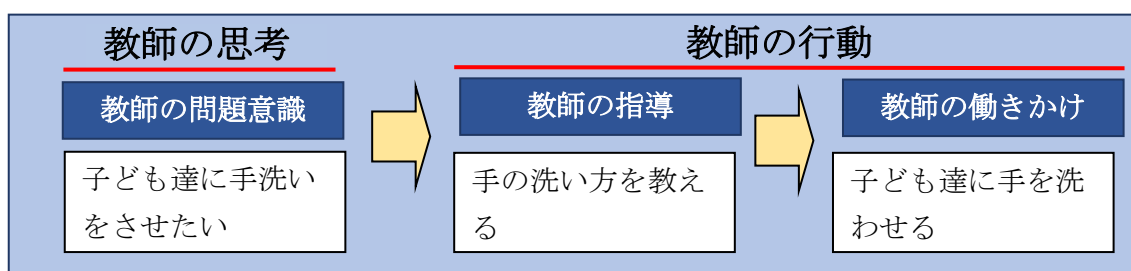
### 2.1.7 学級指導はどのように展開されるか

学級指導で扱う内容を一見すると、教師の一方的な説話になってしまうことが一般的なように思われます。一方で、特活の中の学級指導は、児童たちが自分で問題を解決するという異なる方法を取ります。

手洗いを例にとり、従来の指導と学級指導との違いを見てみましょう。

#### 1. 従来の指導法

この指導では、教師が「子ども達に手洗いをさせたい」と考えた際に、手洗いが必要なわけと洗い方を指導し、手洗いをするように励まします。つまり、教師の側から児童の行動変容を起こそうとしています。

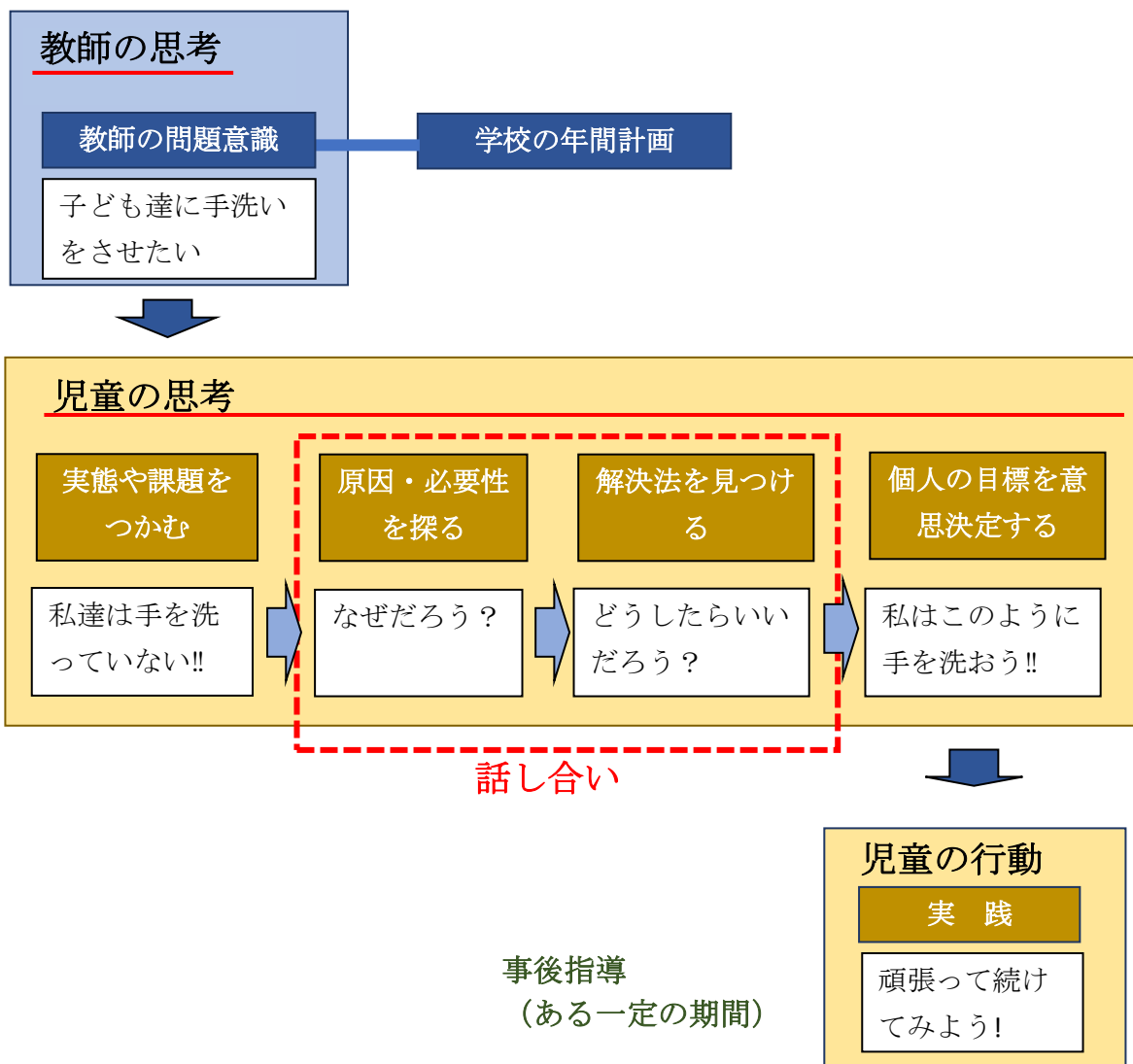


#### 2. 学級指導の指導法

学級指導では、「子ども達に手洗いをさせたい」と考えたときに児童に次のことをさせます。

- ・実態や課題をつかむ「私はちゃんと手洗いできていない」
- ・原因・必要性を探る「どうして私はちゃんと手洗いできていないのだろう」（話しあい）
- ・解決法を見つける「どのように手洗いをしたらいいのだろう」（話しあい）
- ・個人の目標を意思決定する「こういう風に手を洗おう」

教師は児童に問題意識を気づかせ、児童自らが問題を解決するように進めます。言い換えれば、児童は自分自身で行動変容を起こすのです。



学級指導の後には、意思決定した個人の目標に向かって、一人ひとりが取り組む時間を設けるようにします。

#### 2.1.8. 学校の年間計画の指導トピック

学級指導は教師が一方向的に話す教師中心の指導であるため、トピックは年間計画の

中に位置付けることができます。学年ごとにトピックを決め、あらかじめ各月ごとで系統的な指導が可能になります。仮に年度の途中で大きな問題が起こった場合、年間計画のトピックを必要に応じて変更し、問題を解決するよう指導することが可能です。

## 2.2 学級指導の準備はどのようにするか

学級指導は、教師が授業として行う活動ですから、他の教科の授業と同様に準備をします。

### 2.2.1 「授業のねらい」の明確化

教師は、「授業のねらい」を児童が達成できることを目指して授業を進めるので、各授業で「授業のねらい」を明確にしておく必要があります。

たくさんの「授業のねらい」は必要ありません。その授業で児童に何を一番達成してほしいかに絞って設定します。また、その達成のための具体的な活動を付け加えると授業の輪郭が明確になります。

〈適切な「授業のねらい」の例〉

- ・ 「それぞれの児童が、栄養バランスの整った食事の必要性を理解し、毎日の食生活に生かそうとすることができる」
- ・ 「それぞれの児童が、手の汚れを確かめる簡単な実験を通して適切な手の洗い方を理解し、実践することができる」

教師が「授業のねらい」を明確にしておかないと授業の内容も不明確になり、指導が児童の実践につながらなくなる可能性があります。

例えば、「栄養バランスのよい食事をしよう」というテーマで授業をする際に、食事に関することだからといって「食事のマナー」「食事の手洗い」「食事の後片付けや掃除」までを授業内容に含めてしまいがちです。

しかし、これは適切ではありません。教師は授業のねらいである「栄養バランス」だけに絞った内容で授業を行うべきです。多くの内容を含めることは授業のねらいの達成を妨げることになります。

教師は授業のねらいをきちんと設定した上で、その達成に向けて、授業の展開を考えていきます。

### 2.2.2 事前のテーマ提示

事前に児童に対して、「次回の学級指導は、こんな内容で行おうと思いますがどうですか。」というように、問いかける形でテーマを伝えておくことで問題意識が高められます。

児童が事前にそのテーマに目を向けることによって、学習への関心を高めて授業に臨むことができるようになります。

### 2.2.3 事前調査

教師は事前に児童の実態をとらえるための調査をします。授業の中で、それぞれの児童が自分自身を振り返る手助けとなるような資料を準備します。

### (1) アンケート調査

テーマに関わる内容をアンケートで調べます。

学級活動「素敵な言葉」アンケート	
年 組 氏名 ( )	
1. 友達にいやな言葉を使うことがありますか	《はい・いいえ》
《言ったときに、どんな気持ちになりますか》	
2. 友達からいやな言葉を言われたことがありますか	《はい・いいえ》
《言われたときに、どんな気持ちになりますか》	

トピックによっては、児童だけでなく、保護者にもアンケート調査をしても有効です。

### (2) インタビュー調査

アンケートに比べて時間がかかりますが、回答者の思いや考えを詳しく知ることができます。

## 2.2.4 資料の作成と準備

### (1) 事前調査の集計

事前調査した内容は、結果を集約したり、グラフや表にまとめたりします。児童の視覚に訴えることで、児童の理解を深め、実態や課題をうまくつかめるようにします。

高学年の児童については、集計の際に教師と一緒に作業をすることができれば、より主体的に関わり問題意識が高まることや自立して作業をすることが期待できます。

### (2) 実物、写真やビデオ、録音などの準備

実物、写真やビデオ、録音などは、実態を視覚的・聴覚的にとらえることができるので効果が期待できます。教師による手作りの資料も多くの場合有効です。

### 準備の例：

トピック	準備物
物を大切にしよう	机の落書き、捨てられた鉛筆、破けた本などの写真
気持ちを込めて挨拶しよう	挨拶している動画など
手を洗おう	バクテリアの写真、手洗いの動画など
火事や震災から身を守ろう	火事や地震の動画など
将来について考えよう	様々な職業の人の写真、職業に関するインタビュービデオ、録音など

**留意する点：**教師が児童の写真やビデオを使用する場合は注意が必要です。児童の写真やビデオは不適切な状況下では使用してはなりません。個人が特定されたり、児童が問題を自分事としてとらえることができないだけでなく、個人を非難したりする可能性があります。それでは特別活動の目的に全く合致しません。しかしながら、例外なくすべての児童のことを考慮した上であれば、ビデオや写真を使う事も可能です。

加えて、必要に応じて他の資料も準備し、「つかむ」の段階だけでなく、他の段階にも有効な資料を準備、作成することができます。

### (3) 資料を使うタイミング

教師はいつどのように準備した資料を使うのか計画することが必要です。授業の中で効果が最大となる場面で使うべきだからです。

授業で、既存の教材ビデオやインターネットの動画などを利用する際には、使う場面や内容に注意が必要です。一般に、教材ビデオなどは、導入から結論まで、すべてが含まれています。ですから、授業の始めにビデオを見せてしまうと、児童が考える以前に結論を与えてしまうこととなります。すると、児童が自分たちで考える機会を失ってしまうこととなります。

ですから、例えば、「つかむ」の段階でビデオの導入場面だけを見せる、また、「見つける」の段階の最後でビデオの結論部分だけを見せる、などの工夫が必要です。

### (4) 「個人がんばりカード」の準備

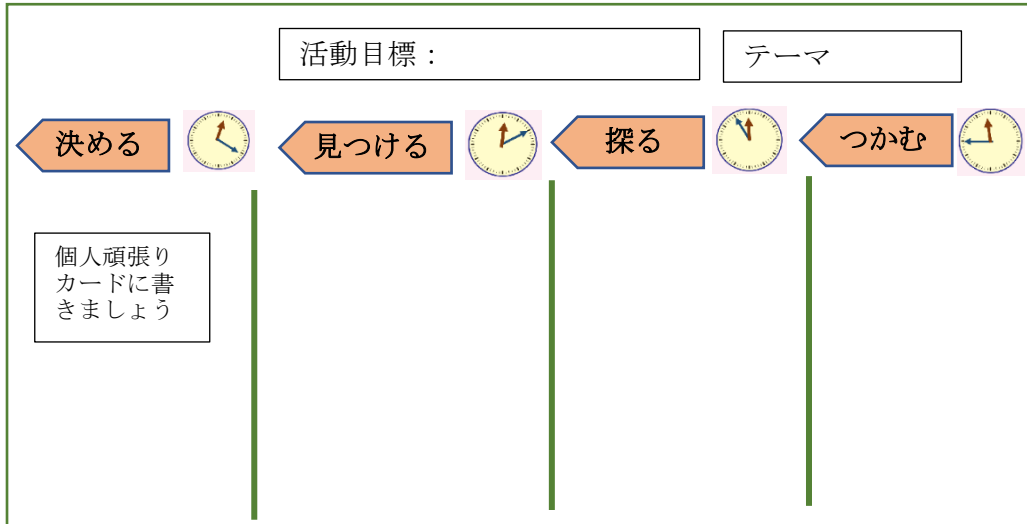
教師は、児童が授業の中で「意思決定」した目標を記入し、一定期間実践を自己評価できる「個人がんばりカード」を準備します。カードは期間の最後に記入します。

カードのデザインはトピックにより様々に変えます。もし、児童が毎回同じデザインものを受け取ったら、児童は興味とやる気を失ってしまいます。児童が何を達成できたのかを色付けする欄を用意することで、児童は喜んで取り組みます。これが児童に目標達成のための努力を継続させる方法の1つです。

## (5) 板書構成はどうするか

学級指導でも、事前に黒板の使い方の計画を立てておくことは重要です。

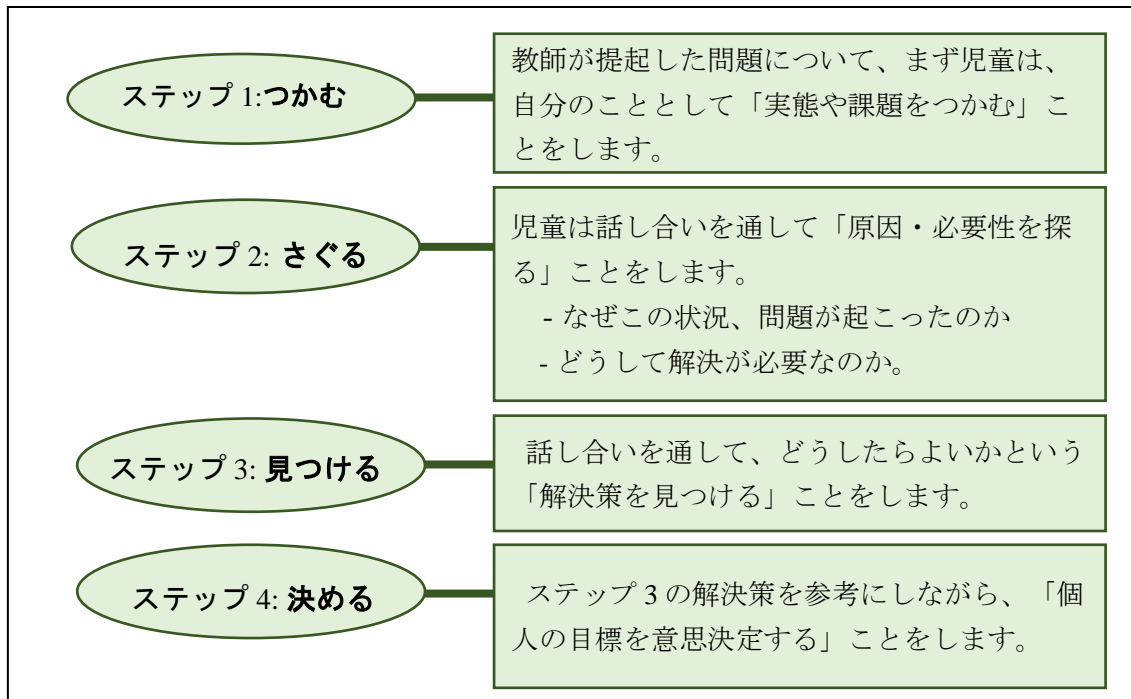
### 黒板計画の例



## 2.3 実際の授業

学級指導では、教師が問題を解決するのではなく、児童が問題に気づき、児童自らが行動変容をする努力をしていくように進めます。これを実現するには、基本的に次のようなステップが使われます。

### 授業の基本的なステップ



注意：これらは基本的なステップで、状況に応じて例外もあります。



### 2.3.1 ステップ1：つかむ（実態や課題をつかむ）

#### 1. 授業の最初に教師がすること。

- 4つのステップを書いた紙、時計のイラストを黒板に貼る。
- 今日のトピックと活動目標を書き、児童に一斉に読み上げさせ、みんなが活動の目標を把握できるようにする。
- 「個人がんばりカード」を児童に見せ、授業の最後に何が期待されているのかを理解できるようにする。

#### 2. 児童が実態や課題をつかむための教師の活動

##### (1) 準備したものを提示する

教師は事前準備したアンケート結果や、実物、写真、ビデオ、録音を児童に提示します。

児童が、他人事でなく自分のこととして問題をとらえ、実態をつかむことができるようにします。教師は以下のものを提示します。

- 事前に準備したアンケート結果
- 実物、写真、ビデオ、録音
- 低学年の場合、人形劇や紙芝居など寸劇を取り入れる。

##### (2) 注意すべき点

教師がものを提示する際、いくつかのことに留意する必要があります。

##### 1. 「良い」「悪い」の判断を教師が示してはいけない

「このようなことはすべきではありません」や「こんなことをしてはだめです」などと発言し、教師が価値判断をするのはよくありません。

これらの言葉は、児童が自分で課題に気づく機会を奪ってしまうこととなります。結果として考えることをせず教師に頼ることになります。

##### 2. 必要以上に、面白おかしくしない

児童の興味を引くために、教師は面白い寸劇をしようとしがちですが、児童が「先生が楽しい劇をしてくれた」という感想をもって終わってしまったら逆効果です。大事なことは、児童が寸劇を通して、課題を自分のこととしてとらえられることです。教師は、面白い劇を見せる努力よりも、課題を明確に伝える努力をする必要があります。

### 2.3.2 ステップ2：探る（原因・必要性を探る）…話し合いで探ります

このステップでは、問題の原因・必要性について、児童が話し合いながら追求します。話し合いは教師が中心になって進めますが、教師は考えを押し付けるのではなく、児童の考えを引き出すファシリテータとしての役割を果たします。以下、話し合いの例を示します。

#### (1) 話し合いの例：原因を探る

以下は、「私はどうして手を洗わないのか」の理由を探る段階の例です。

### 【話し合い例1】

教師：さて、「つかむ」のステップでは、いかにみんなが手を洗っていないかが、明らかになりましたね。

ここからは、「なぜ、手を洗わないかについて考えていきましょう。皆さんの意見を出してください。」

児童A：僕は、面倒くさいと手を洗わないことがあります。

児童B：私もA君と同じで、面倒くさいときは手を洗いません。

児童C：私は、水道がないときに手を洗いません。

児童D：僕は、Cさんに付け足して、石鹸がないときは手を洗いません。

児童E：私は寒い日は、水が冷たいので手を洗いません。

(以下、続く)

### (2) 話し合いの例：必要性を探る

下の例では、「なぜ、解決しなければならないのか」という「必要性」を探る例です。

### 【話し合い例2】

教師：では「なぜ、手を洗わなければならないかについて考えてみましょう。」

児童A：私は、手が汚いと、泥とかばい菌とかが家の中に入ってくるからだと思います。

児童B：僕は、手が汚いままご飯を食べると、ばい菌が体の中に入ってしまうからだと思います。

児童C：僕は以前、目にばい菌が入って腫れてしまったことがありました。お医者さんは、手を洗わなかったからかも知れないといいました。

(以下、続く)

教師：手を洗わないと、ばい菌が手から身体に入って病気になってしまう、という意見がたくさん出ていますね。それでは、これを見てください。

《教師は、準備しておいた手のばい菌の顕微鏡写真を児童に見せる。》

児童たち：うわっ、気持ち悪い。いやだあ。

教師：これは何だと思いますか？

児童D：手についたばい菌だと思います。

児童E：手を洗わないとこのばい菌が口の中に入ってくると思うと気持ちが悪くなります。

(以下、続く)

授業の目的により、「探る」のステップでは、「原因」が明確になる場合もあるし、「必要性」が明確になるかもしれません。

例1と例2で示したように、このステップで「探る」内容は、2つの場合があります。教師はこれらを混同することなく、授業のねらいによってこれらを使い分けることが必要です。

話し合いを進めながら、教師は、児童から出された意見を要約して、黒板に書いていきます。児童は書かれた内容をもとにさらに考えを深めるようにします。

### 2.3.3 見つける（解決法を見つける）…話し合いで見つけます

このステップでは、児童は話し合いの中で解決法を見つけていきます。ステップ2と同様、「見つける」内容にも2つの場合が考えられます。ひとつは「どうしたらできるようになるか」に対する解決策を見つけ、もう一つは「よりよい方法は何か」について解決策を見つけてみます。教師はこれら2つを混同してはならず、授業の目的によってどちらが適切か使い分ける必要があります。

話し合いをすすめながら、教師は、児童から出された意見を要約して、黒板に書いていきます。児童は書かれた内容を基にさらに考えを深めるようにします。

(1) 話し合いの例：「どうしたら、できるようになるか」という解決法を見つける

#### 【話し合い例3】

教師：みなさん、「さぐる」のステップでは、たくさんの意見を出しましたね。ここからは、「どうしたら手を洗えるようになるか、について考えていきましょう。」

児童A：僕は、ばい菌が嫌なので、面倒くさいと思っても手を洗うといいと思います。

児童B：私は、水がないところでも手が洗えるように、ウェットティッシュを持ち歩くことがいいと思います。

児童C：僕は、「外から家に帰った時に手を洗う」と決めれば、手を洗えると思います。

児童D：私は、C君に付け足して、「家に帰った時と掃除の後に手を洗う」と決めれば手を洗うようになると思います。

(以下、続く)

(2) 話し合いの例：「どのように洗ったらきれいに洗えるのか」という解決法を見つける

#### 【話し合い例4】

教師：では次に、「どのようにしたら手をきれいに洗えるか、について考えましょう。」

児童A：私は石鹸を使うといいと思います。なぜなら水で洗うだけなら不十分だからです。

児童B：僕は、Aさんに付け足して、石鹸を使って、丁寧に時間をかけて洗えばいいと思います。毎回30秒以上の時間をかけて洗うと良いと思います。

児童C：さっきのばい菌の写真で、爪や指先の間にばい菌がいることが分かったので、爪と指の間をよく洗うといいと思います。

(省略)

教師：なるほど、いろいろな意見が出ましたね。

さて、今日の授業では、スクールナースのランダ先生に来てもらっています。ここでランダ先生から、正しい手の洗い方を教えてもらおうと思います。ランダ先生お願いします。

《ランダ先生が、適切な手の洗い方を説明する》

(以下、続く)

どちらの例にしても、教師は、児童が話し合いを通して、多様な視点から解決方法を見つけられるように授業を進めていきます。このため、学級指導で話し合いが使われるのです。それぞれの児童が一人で考えられないことでも、一緒に考えればたくさんのアイディアを思いつくことができます。

#### 2.3.4 ステップ4：決める（個人の目標を意思決定する）

##### (1) 個人の目標を決める

いよいよクラスのみんなで話し合っで見つけた解決方法に沿って、一人一人が、具体的な個人目標を意思決定するステップです。当然、意思決定する内容は個人で異なります。

個人の目標は、それぞれの児童が後で自分自身で容易に評価できるように、目標が達成できたのか否かが明確になるようにします。数値目標を設定すると容易に達成が分かるようになります。

### 適切な目標の例と適切でない目標の例

適切でない目標	適切な目標	理由
- お菓子を食べすぎない	- お皿に上に取り出したお菓子のみを食べるようにする。	達成できたのか否かが明確にわかる
- 気持ちを込めて挨拶をする。	- 挨拶する時は相手の顔を見る。 - 笑顔で挨拶する。	
- 皆と仲良くする。	- 友達と喧嘩しない。	
- 皆と仲良くする。	- 毎日5人の友達に話しかける。	数値目標が入っている
- 友達と協力する。	- 1日1回「何か手伝おいましょうか」と声をかける。	
- 家で一生懸命勉強する。	- 毎日30分は勉強する。	

#### (2) 個人の目標をカードに書く

教師はあらかじめ準備しておいた「個人がんばりカード」を各児童に配ります。カードの内容はテーマごとに教師が工夫しますが、大事なことは、個人の目標の欄を空欄にしておくことです。児童は、そこに自分で意思決定した目標を、しっかりと自分の言葉で記入します。

保護者がコメントを書く欄を作ると、家庭と連携した活動となります。加えて、教師が実践のあとにコメントして努力を称賛したり励ましたりできるようにしておく、児童の意欲につながります。

個人がんばりカードを完成させた後、クラス全体で、もしくは近くの児童同士で自分の目標について発表させ、お互いに励まし合います。そうすることで、目標の達成を促進することができます。また、児童は友達の意見を聞くことで、必要に応じて自分の目標を調整し、教師も児童に目標を達成するよう動機付けることができます。

「個人がんばりカード」の例  
(テーマ：上手に手を洗おう)

児童が学級活動の時間に記入します。

例：

【いつやるか】 食べる前、トイレの後、掃除の後

【どうやってやるか】 石鹸で、30秒かけて

【その他】 洗った後はハンカチで手をふく

“手洗い” がんばりカード

名前 ( )

■私の決めた目標

【いつやるか】  
【どうやってやるか】  
【その他】

■どれくらい達成できましたか(できたら色を塗りましょう)

						Date
★	★	★	★	☆	★	

■行動を振り返って、できるようになったことやこれからも続けていきたいこと

■保護者から

■先生から

一日の終わりに自己評価していきます。

実践の期間が終わったら振り返ります。

保護者からコメントをもらうなど、連携を図ります。

教師が励まします。

(3) 個人目標を意思決定する際に教師が気を付けること

- 教師が「こうしなさい」と指示をしないことです。そうではなく、仮に自分で目標を決めることが出来ない児童を見かけた場合、「あなたはどのような目標に決めたらいいでしょうね」など、児童に寄り添いながら、児童が意思決定できるように助言することがたいせつです。

中には、自分に合わない目標や実現できそうにない目標を決めようとする児童が出てきます。その場合、大きな努力を必要とする高い目標を立てるのではなく、今の自分からちょっとだけ高い目標を決めるように助言することもあります。そのようなケースでも、教師は児童の自尊心やモチベーションを尊重する必要があります。

### 2.3.5. 実際の授業展開はどのようになるか

以下に、「つかむ」「探る」「見つける」「決める」の4つのステップで実施される学級指導の展開例（細案）を示します。

#### 学級指導の展開例

1. [テーマ] 素敵な言葉を使おう
2. [ねらい]  
それぞれの児童が「言われて嬉しい素敵な言葉」はたくさんあることに気づき望ましい関係を築くためにそれらを喜んで使おうとする。
3. [準備]  
(1) 事前準備：「言われて嬉しい素敵な言葉」

授業 "言われて嬉しい素敵な言葉" アンケート	(名前: ..... )
1. これまで言われて嫌な言葉を友達にかけたことはありますか? (はい/いいえ)	
(そのような言葉を友達にかけた時のあなたの気持ちは)	
2. これまで友達に言われて嫌な言葉をかけられたことがありますか。 (はい/いいえ)	
(そのような言葉をかけられた時のあなたの気持ちは)	
3. 言われて嬉しい言葉は何ですか。	
4. 言われて嫌な言葉は何ですか。	

これらの言葉は、以下のようにまとめます。

■言われて嬉しい素敵な言葉

ありがとう、一緒に遊ぼう、大丈夫だよ、頑張ったね、じょうずだよ

■言われて嫌な言葉

へたくそ、あんたが嫌い、あっちへ行って、じゃまだ、一緒に遊ばない

(2) 個人頑張りカード

#### 4. 授業案



Step	教師のファシリテーション	児童の活動	注意点
1. つかむ	<p><b>授業の前に</b>、話し合いの流れ（つかむ、探る、見つける、決める）のタイトルを黒板に貼っておきます。</p> <p><b>授業が始まったら</b>、黒板にテーマを書き、「決める」で用いる個人がんばりカードを児童に見せて、本時のゴールについて意識できるようにする。</p> <p>アンケート結果をフリップにしたものを黒板に張り出します。</p> <p>「先日、皆さんが答えたアンケート結果をまとめました。」</p> <p>「気付いたことを発表しましょう。」</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>■ 言われて嬉しい素敵な言葉</p> <p>ありがとう、一緒に遊ぼう、大丈夫だよ、頑張ったね、じゃうずだよ</p> <p>■ 言われて嫌な言葉</p> <p>へたくそ、あんたが嫌い、あっちへ行って、じゃまだ、一緒に遊ばない</p> </div> <p>アンケートの結果を見ながら、クラスみんなは気持ちのよい言葉を使っていることに気付き、意見を発表する。</p> <p>一方で、いやな言葉を使うこともあることを知り、気付いたことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業が始まる前に、話し合いの流れが黒板に貼ってあることで、児童は授業の展開を予想することができます。</li> <li>● 気持ちのよい言葉がたくさんあり、その言葉でクラスの雰囲気や人間関係よくなっていることに気付くようにする。</li> <li>● 言われて嫌な言葉があることに気付くようにする。</li> </ul>
2. さぐる	<p>質問1. 「なぜ嫌な言葉を使ってしまったのでしょうか、考えてみましょう。」</p>	<p>児童は、嫌な言葉を言うてしまう原因を探す。《予想される意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 腹が立つから、いらいらするから</li> <li>● 嫌なことがあったから</li> <li>● うまくいかなかったことがあったから</li> <li>● 負けたくないから</li> <li>● 相手が弱いと思うから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童が本音で意見を述べる学級の雰囲気をふだんから作っておく。</li> <li>● 出された意見を、教師は黒板に書いていく。</li> </ul>

	質問2. 「嫌な言葉を使ってしまうときは、相手が嫌な気持ちになることに気付かずにやってしまうのでしょうか、わかってやってしまうのでしょうか、どちらでしょう。」	《予想される意見》 ● 何も考えずに 言うてしまう ● 相手が嫌な気持ちになることはわかって やってしまふ。	
3. 見つける	質問1. 「どうしたら、教室が素敵な言葉でいっぱいになるのでしょうか、考えてみましょう。」	児童が、解決方法を自ら考えて発表し合う。 《予想される意見》 ● 相手の気持ちを考えて話す ● 友達のよいところを見つけて話す ● 素敵な言葉を書いて教室に貼る ● 毎日必ず素敵な言葉を使う ● あまり遊んだことのない友達とあそぶ	● 意見が出にくいときは、ペアやグループで話し合うことで、個々の考えを深めたり、広めたりするのもよい。 ● 出された意見を、教師は黒板に書いていく。(繰り返しなし)
4. 決める	「皆さんから、たくさんの解決方法が出されましたね。」 児童に個人頑張りカードを配ります。 指示1. 「それでは、『自分はこの方法でやってみよう』『自分はこんな心構えでやってみよう』という目標を意思決定して、個人がんばりカードに書いてみましょう。」 指示2. 「それでは、皆さんの決めためあてを発表し合ひましょう」	教師からの指示1に従い、自分に合った個人目標を意思決定して、個人カードに書く。 教師からの指示2に従い、互いに自分の努力しあうことを発表し合う。 《予想される目標》 ● 人に何かを頼む時、「ちょっとごめん」という ● 素敵な言葉を教室に貼り、一日3回は使う ● 「一緒に～しようか」と誘う など  拍手をして目標を認め合う	● 具体的な実践方法を意思決定できるようにする。 ● 「いつ」「どのように」を明確にしたり、数字を使ったりするなど、具体的な行動目標として書けるようにする。 ● 記入した個人カードを周りの友達と見せ合ったり、全体の場で発表することで。実践への意欲づけになったり、自分に合った目標への修正の機会になったりする。
	「一人一人が意思決定した自己目標を実現できるように頑張りましょう。」という言葉で締めくくります。		

## 2.4 児童の実践

### 1. 目標達成のための取組み

授業の後、児童は一定期間、意思決定した目標について、達成を目指した努力をします。その結果を「個人がんばりカード」へ記入していくようにします。

「一定期間」は、決まっているわけではありません。テーマにもよりますが、おおむね1週間程度、長くても2週間までが妥当です。2-3日の場合は実施には短すぎ、1週間以上になると継続して取り組むことにモチベーションを失う児童が出てくる可能性があります。

もし、児童が一定期間努力を継続できなかつたとしても、寛容に接しましょう。特活では、一定期間で目標を達成するために努力を繰り返すプロセスを大切にしています。もちろん、一週間以上努力を継続できていれば、それは大変すばらしい事です。

### 2. 実施のあと

個人頑張りカードを記入したあと、コメントをもらうため、保護者や教師にカードを見せます。この個人頑張りカードは、あとで達成した目標を振り返り達成感や自尊心を味わえるように、ファイルなどに綴じこんで保管するようにします。

### 3. 教師の役割

#### (1) 実施期間中

教師は児童に、「自分もやればできる」という自己効力感がもてるようにすることが何よりも重要です。そのために児童が目標実現に取り組む姿を認め、個別にほめたり励ましたり、アドバイスをしたりして、成果を上げることができるよう指導します。

#### (2) 実施後

一定期間の努力が終わった後は、児童の個別の目標に対する努力を誉めます。もし目標を達成できない、もしくは完璧に問題が解決されなかつたとしても、「努力の結果だね」「いい方向に進んでいるよ」など肯定的な言葉をかけ、児童に努力することの大切さをわかってもらえるようにします。

児童同士の競争をあおって賞罰を与えたり、一部の児童を批判したりすることは避けなければなりません。

## 2.5 他の教員や地域の人との協力

学級指導のテーマによっては、スクールナースや学校医、ソーシャルワーカーなどと協力することも効果的です。また、保護者や地域の人材からの援助をもらう事も可能です。これらの協力は、学級指導で取り扱う内容に広がりや深みを持たせ、その結果、目標を効果的に達成することにつながられます。

これらの人々とのミーティングでは、以下を明確にします。

- 協働の目的
- 内容
- 準備
- 役割分担 など

## 2.6 学級活動の年間計画

### 2.6.1 学級指導の時間

特活では、「学級指導」と「クラスでの話し合い」の両方が実施され、これら2つの活動のために年間約32時間が充てられます。

(1.8.1 各活動に必要な特活の時間数を参照)

そのため、学校はこれらの活動に必要な時間数を事前に見積もる必要があります。

### 2.6.2 学級指導の年間計画

学級会のトピックは事前に決定できない一方で、学級指導のトピックは、学級指導が教師中心の活動であるため事前に決定し、年間計画の中に組み入れることができます。学校は系統立った指導を行うために、各学年の各月に事前に題材を決めておきます。

#### 1. 学級指導のトピック

学級指導のトピックを決める時、以下の内容が均等に含まれるように調整されます。

- (1) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- (2) 一人一人のキャリア形成と自己実現

以下が、3年生を対象とした学級活動のトピックの例です。

- (1) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

内容	学級指導のトピック例
基本的な生活習慣	① 気持ちを込めて挨拶をしよう ② 忘れ物を無くそう
より良い人間関係を築こう	③ より多くの友達を作ろう ④ 言葉で問題解決をしよう
安全で身体的にも精神的にも変革的な生活習慣をつくらう	⑤ 避難訓練（火事と地震） ⑥ 誘拐されるのを防ごう ⑦ 手の洗い方を見直そう
食育の観点から、望ましい食生活をしよう	⑧ バランスの取れた食事をしよう ⑨ 適切な軽食の取り方を学ぼう

- (2) 一人一人のキャリア形成と自己実現

内容	学級指導のトピック例
現在と未来の目標を達成するために意思と行動を起こそう	⑩ クラス目標と個人目標を決めよう ⑪ 一学期の私たちの活動を振り返ろう ⑫ 一年間の私たちの活動を振り返ろう
コミュニティへの参加意識を養い仕事の重要性を理解する	⑬ クラスの大掃除をしよう ⑭ 学級を改善するためのガイダンス（「学級での話し合い」と「係り活動」をモニタリングするガイダンス）

学校の図書館を使い、 自立的で自発的な学習 習慣をつくらう	⑮ 学習ルールを見直そう ⑯ 学校図書館を活用しよう
-------------------------------------	-------------------------------

他学年で扱ったトピックと同じものを4年生で取り扱うのも可能です。この場合、他学年と同じ指導をするのではなく、児童の発達段階や経験に合わせて、説明の内容を変更します。そうすることで、同じトピックでも異なる学年で活用することができます。例えば、避難訓練や人間関係の築き方といったガイダンスを繰り返すことにより、児童は実践的な能力を身に着けることができ、児童の経験と成長に合わせて指導することができます。

## 2. 年間計画への学級指導のトピックの割当て

学年にあてはめられたトピックは、学校や児童の実態に合わせて年間計画の中に組み入れます。

学年の初めに、1年間で児童の生活で何が起こるのかを想像します。

年度のはじめのトピックとしては、学級や個人の目標や、安全や安心に関わるものを設定します。トピックは、児童の状況やガイダンスの時期を考慮し、例えば、冬の初めに風邪の予防に関するトピックを設定したり、子供たちの友情が強化される2学期の初めに友人同士の関係に関するトピックを設定したりします。

既述のとおり、特活の時間には学級指導だけでなく学級会も実施されるためバランスよくクラスが調整されるよう調整されます。

以下は、学級指導が月に2回開催される想定での年間計画案です。

(この場合、決定したことの実施を含む学級会は、同じく月に2回実施されま  
す。)

### 3年生の学級指導の年間計画の例

No.	トピック	
1	9月	⑩ クラス目標と個人目標を決めよう
2		⑤ 避難訓練（火事と地震）
3	10月	⑭ 学級改善のためのガイダンス（「学級での話し合い」と「係り活動」のモニタリング方法に関するガイダンス）
4		⑯ 学校図書館を活用しよう
5	11月	⑨ 適切な間食の取り方を学ぼう
6		⑦ 手の洗い方を見直そう
7	12月	④ 言葉で問題を解決しよう
8		⑥ 誘拐されないようにしよう
9	1月	⑪ 1学期の私たちの活動を振り返ろう
10	2月	③ もっと友達を作ろう

11	3月	⑮ 学習ルールを見直そう
12		① あたたかい挨拶の言葉をかけよう
13	4月	⑧ バランスの取れた食事をしよう
14		② 忘れ物を無くそう
15	5月	⑬ 大掃除をしよう
16		⑫ 3年生の私たちを振り返ろう

#### 注意

トピックの横についている数字は、異なる内容のトピックであることを示しています。これは異なるカテゴリーのトピックから話し合いのトピックが選ばれていることを示しており（p.67に明記）、年間計画作成の際、教師が同じカテゴリーの中からトピックを選ばないようにし、カテゴリー間のバランスを取るようになる役割があります。トピックの順番は、教員ガイドに示される順番でなく、学校の状況や必要性、時期などにより変更されます。

学校は学年の最初に年間計画を作成しますが、年度の途中で新しい問題が生じる場合にも配慮します。この場合、それに応じて年間計画のトピックを変更し、学級指導を行う場合もあります。それでもすべてをカバーすることはできません。朝の会や帰りの会を活用して指導を行います。